

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	特定非営利活動法人障がい者の暮らしとお金の相談室	
代表者名	齋藤 真一	
連絡先 TEL : 080-6937-7267 FAX :	E-mail lamftd1203@gmail.com	

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	学齢期の障がい者の親向けサポートブック作成事業
事業の目的	<p>本事業の目的は、当事者家族の「お金」に対する課題解決能力を高めるとともに、「親なきあと」「8050問題」への早い段階からの備えを促すことにある。</p> <p>4/18に行われた日本記者クラブの記者会見において、成年後見制度利用促進専門家会議委員が「親なきあと」等の問題は福祉とファイナンスの両面が必要と見解を示していた。</p> <p>本取り組みにおいては福祉とファイナンスの視点を盛り込んだ成果物（サポートブック）の作成を目指す。</p>
事業の具体的内容	<p>障がい者の「お金」「親なきあと」「8050問題」対策は未開拓分野で、宮城県内では支援の前例がほとんどない。</p> <p>家族や支援者から高い関心が寄せられているものの、これまで前例のない取り組みであるために、当事者家族はどのように対策をとればよいか分からず、漠然とした不安を抱えている。また、唐突に専門的な知識を得ようとしても困難さがあり、持続性が期待できない。</p> <p>そこで、県内の支援学校PTA役員等の協力を得て、学齢期の障がい者の保護者向けガイド（サポート）ブックの作成を行った。</p> <p>親なきあと対策は、親の若い時期から対策を行うと効果が大きく負担も少ない。</p> <p>今回のガイドブック作成は学齢期の保護者に焦点を充てて企画・作成した。</p>

<p>活動の開始から完了までの流れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「親なきあと」「8050 問題」への早い段階からの備えを促すことを目的にガイドブックの対象者を学齢期の障がいのある子どもの保護者とした。 • 原案作成に向けた打ち合わせ会は県内支援学校 PTA の役員等により構成した。 • 定期打ち合わせ会は6回、その他随時の打ち合わせ会を実施した。 • 学齢期の保護者にとって、「親なきあと」「8050 問題」は遠い先のこととなる。そのため、発達段階の課題や進路のことなどを盛り込みながら、徐々に「親なきあと」「8050 問題」に触れていく内容とすることを目指した。 • 必要な情報のうち、専門的な内容については、専門家の協力を得た。 • 「親なきあと」に向けた制度紹介よりも、構成員の障がいのある子の子育て経験や将来の不安に焦点を充てた。打ち合わせ会では雑談形式により実施し、経験してきた悩みや葛藤を<u>楽しく</u>話していただいた。その中で発信すべきポイントを抽出した。 • 抽出したポイントを原案として編集者に提出し、編集・デザイン・印刷を依頼した。
<p>活動の成果と教訓</p>	<p><成果> 構成員の障がいのある子の子育て経験や将来の不安に焦点を充てた内容としたため、当事者家族が親しみやすい内容となった。特に不安の大きい「お金」のことのほか、障がいのある子が直面する「性」の問題について踏み込むことができた。なお、「親なきあと」対策で話題に上がりやすい成年後見制度などについては、成人期の課題となるため掲載を見合わせたことも、支援学校の保護者の冷静な判断からできたことと考える。</p> <p><教訓> 学齢期保護者が悩む「進路」については、元支援級の教員に指導・助言を仰いだ。他の元支援学校校長などより、小中高等部と範囲が広く、焦点がぼやけたて分かりにくいとの指摘をいただいた。一人の専門家よりも複数の専門家の指導を仰ぐべきだった。</p>
<p>今後の展望など</p>	<p>本ガイドブックは主に構成員が所属する支援学校や放課後等デイサービス事業所などで配布することとしている。配布だけではなく、保護者の勉強会の題材にすることとしている。</p> <p>今回のガイドブックは、家族が経験してきた不安や悩みに焦点を充てて、そのうえで乗り越えてきた経験や役に立つ制度紹介に綱が得る内容となっている。そのことが評価されており、本ガイドブックの「ひきこもり者」家族版の作成を求める声があるので取り組みたい。</p>

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	470,000	
自主財源	940	
合計	470,940	

■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
謝金	専門家講師謝金@20,000円 ×1名×2回(1回2時間)	60,000	40,000
謝金	作成協力者打合せ会謝金 @3,000円×延べ37名(1 回2時間)	180,000	111,000
編集・印刷費	B5カラー 23頁 500部	218,000	318,450
通信連絡費		6,000	660
会議費		6,000	830
合計		470,000	470,940

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

- ① 福祉活動助成金 助成活動報告書
プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。
- ② 領収書のコピー (郵送)
- ③ 成果物 (活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)
*写真は郵送とメールで送ってください。

「こんなときどうする？」

障がいのある子の親のための

ガイドブック

どうしたらよいか困ったとき、わからなくなったときのために

— 先輩お母さんからのアドバイス —



「こんなときどうする？」

障がいのある子の親のための

ガイドブック

どうしたらよいか困ったとき、わからなくなったときのために

— 先輩お母さんからのアドバイス —

ガイドブック「こんなときどうする？」は、幼児期から学齢期のお母さんとお父さんが子育てで困ったとき不安になったときに、役立ててほしいと作成しました。

子どもが小さいからこそ、親が「本人の意思を尊重する」ことが子育ての基本です。障がいのある子の多くは意思表示が難しいものです。でも、意思表示ができなくても、意思がないわけではありません。

残念なことに、子どもの意思を尊重したくてもそれが難しい場面は多いものです。そんな状況に遭遇したとき、親御さんが困り果てて疲れ過ぎないようにしてもらいたい。そのためヒントを盛り込んだガイドブック「こんなときどうする？」です。

困ったときの活用だけでなく、困る前の、心と対応の準備のために、ご活用ください。



1.困ったときって、どんなとき？

日常で不安になったり悩んでしまったりした親御さんの、経験と対応の例を挙げました。困った場面に遭遇して困惑するのではなく、想定して準備をしておく。これが、いざというときのスピーディーな対応につながります。

親が困ったときは、どんなとき？

冠婚葬祭のとき

体験

近い身内に不幸があって、夫婦で葬儀に出席しなければならないときに、子どもの預け先に困りました。

自分(母親)の体調がすぐれないとき

体験

風邪をひいたときには、子どものごはんづくりや家事などが大変でした。



母親・父親が入院したとき

体験

自分が入院したとき、一番心配だったのは子どもの世話でした。近くに暮らす妹にお願いしてなんとか対応できました。でも身内が近くにいなかったらと思うと、不安になってしまいます。

日常的な困ったとき

体験

反抗期の子どもと密に接する毎日。距離を置きたくて一人の時間が欲しくなりました。第三者の介入という方法が頭をよぎりました。デイの活用は、結果的にお互いに気持ちの切り替えになったと感じています。

体験

病院が苦手な子どもです。病院では暴れて受診できなかったり、予防接種さえできなかったりする状態。通院そのものが親に重くのしかかってきます。

※日常的に困ることには、上記の体験例の他に、「公共の場で静かにできない」「偏食がひどい」「癩癪(かんしゃく)が激しい、大声がとまらない」「物を壊す、自傷・他害行動がとまらない」など、さまざまな事例があります。

「親なきあと」の経済対策

「親がいなくなったあと、障がいのある子どもはどのように生活をするのだろうか？」
「今は親がサポートをしてあげられているけど、親がいなくなったあとがなんとなく不安。
でも、先の話過ぎてよく分からない」という、漠然とした不安を抱える親御さんは、とても
多いです。

暮らしのお金は、早めの準備

支援学校の保護者向け勉強会や家族向けの情報で、「親なきあと」を耳にされた方は多い
と思います。

不安はあるけど今の生活が忙しくて、具体的に考えることは難しいと思います。特に学
齢期の保護者は先の話なので、考えることや対策をとることは、子どもが成人してからで
良いと思われる人は多いのではないのでしょうか。

一般的に「老後資金」対策は、20代、30代から準備を始めることが推奨されています。障
がいのある人も同じです。『親なきあと』対策のうち、経済的な対策は親が若いうちから始
めると、親の負担が少なく効果も大きくなります。

では、具体的にどのようにすればよいか。

「親なきあと」を支援する専門家

令和4年度から、仙台市では「親なきあと生活設計事業」を始めました。

このような公的機関や福祉団体の、「親なきあと」に関する学習会や相談会を、最初に活
用することをおすすめします。

仙台市親なきあと生活設計事業(ファイナンシャル・プランナーによる学習会・相談会)

仙台市障害者支援課 TEL.022-214-8165

受託法人 特定非営利活動法人 障がいの暮らしとお金の相談室
TEL.080-6937-7267



あとがき

この『ガイドブック』は、障がいのある子のお母さんたちが、子育て
で苦労した実話を中心にまとめています。子育てを経験された
方は、「あ、これ分かる〜！」と共感できるエピソードがあるかもし
れません。

編集に携わっていただいたお母さんたちからは、子育てで困っ
たとき、どこに相談したらよいか分からなかったエピソードや、苦
戦しながら開拓した対処法などが語られました。

先輩お母さんたちも、そのときは困っていたのです。しかし今で
は、同じ体験をしたお母さん同士が、ときには爆笑しながら語り合
う姿は、力強くてのしみえます。苦労した経験は、お母さんた
ちの思い出のひとつになっているようでした。

どのお母さんも、口々にお話していたことがあります。

「苦労していたときに助けてもらったのは、障がいのある子を育
てた先輩お母さんと、当時奮闘中だった同年代のお母さん」だった
そうです。

お母さんたちが苦労したこと不安に感じたことは、「将来が見通
しにくい進路」「難しそうな障害基礎年金」「相談できそうにない
と思いつている、性のこと」など、広範囲にわたります。

これらの課題を解決するため、皆さんの道しるべのひとつに
なってほしいと作成した『ガイドブック』です。手にとられた方々
の、現状を打破するツールになることを心から願います。また、困
りごとを家庭内だけで抱え込まず、ぜひ、先輩お母さんや専門相談
員とつながるきっかけにしていきたいと思えます。

最後に、ガイドブックの作成に協力していただいた皆さんに、心
から感謝を申し上げます。

特定非営利活動法人 障がいの暮らしとお金の相談室
ファイナンシャル・プランナー
齋藤 真一